

## 令和元年度第2回公民館運営審議会会議録

令和元年10月4日（金）午後1時30分～  
山手地区公民館 講座室3

出席委員：萩原委員長、麻生川副委員長、中野（俊）委員、小松委員  
中野（伸）委員、谷口委員、井上委員  
欠席委員：北野委員、西田委員、木村委員  
出席職員：樽谷教育部長、寺戸中央公民館長、小山浜手地区公民館長  
小西山手地区公民館長、高森中央公民館長補佐

館長：ただ今から、令和元年度第2回公民館運営審議会を開催させていただきます。

この審議会の根拠については、社会教育法第29条第1項の規定に基づき、市の条例により設置されております。また、第2項に「公民館運営審議会は館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施に調査審議するものとする。」と定められています。構成会議の運営などの詳細は本市の条例、規則に定められています。

なお、この審議会は会議録作成の都合上、録音させていただきます。まず、本日の配布資料を確認させていただきます。なお、本日の資料は事前送付しているものをご持参いただくよう依頼申し上げます。送付しました資料は「令和元年度第1回公民館運営審議会会議録（案）」の1点です。

また、本日の資料は施設利用をグラフ化しているもの3枚、文化の日のつどい関係書面3枚（案内状1枚、ちらし2枚）、その他の資料は公民館のちらし等です。

本日の会議は、現在10名委員中、6名が出席されており過半数の出席となっております。よって審議会規則第3条第2項により審議会は成立しております。

なお、欠席と聞いておりますのは、北野委員、西田委員、木村委員で、中野俊彦委員はこちらに向かっております。本日の案件進行については審議会規則第3条第1項により、委員長が議長になりますので、委員長をお願いします

### 1. 令和元年度第1回審議会の会議録について

委員長：審議会会議録について、事務局から説明をお願いします。

館長：それでは、令和元年度第1回公民館運営審議会の会議録について、ご説明いたします。事前に送付いたしました、令和元年度第1回公民館運営審議会の会議録につきまして、ご確認いただき、お気づきの点などがございましたらこの場でご意見をお願いいたします。

なお、委員長から本日の審議会に先立ち、修正カ所の申し出を受け承りましたので、事務局から説明いたします。

事務局：9月13日に委員長より修正の連絡をいただきまして、会議録の言い回しなどの修正を行いました。

—以下、修正箇所を読み上げ、統計資料に基づく語句・数値の訂正についても、承認を得た—

委員長：他、お気づきの点などありましたらお願いします。

館長：無いようでしたら、事務局から提案させていただきます。前回の審議会でお示しいたしました平成30年度第4回公民館運営審議会の会議録について、皆さまから承認はいただきましたが、発言された旧委員にもう一度、確認したところ、発言主旨に誤りはないとご回答いただきました。

ただし語句の表現は少し変えてほしいということで、若干の訂正を受けております。本日の資料にはございませんが、この訂正に伴いまして、字句その他、整理を必要とする部分について、委員長に委ねたいと考えますが、皆さん、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

館長：了解しました。よろしくお願いいたします。

委員長：若干の修正を事務局の方でお示しいただいて確認させていただきます。なお、前回の会議録については了承をいただいたので認めたいと思います。

では次の案件で、近畿公民館大会（奈良大会）について、事務局から説明を求めます。

## 2. 近畿公民館大会（奈良大会）について

館長：第67回近畿公民館大会（奈良大会）について2点報告させていただきます。

前回、説明させていただきましたが、11月15日（金）に開催します。

本市の参加状況について説明します。9月2日に委員各位に参加の案内をしましたところ、2名の委員から参加の申し込みを受けました。事務局からは私を含め、三館長ほか7名参加する予定です。本市の参加状況は以上のとおりです。

次に前回の審議会で議題に挙がりました、近隣各市の公民館運営審議会などの大会参加状況を調査いたしましたので報告させていただきます。

岸和田市は貝塚市の公運審にあたる生涯学習審議会の委員がおられます。岸和田市と高石市の公民館運営審議会委員の参加は、ともに今回は参加しないと回答をいただきました。

阪南市の公民館運営審議会委員の参加は公民館利用者を含め5名参加します。公民館職員の参加は岸和田市が3名、阪南市が2名、田尻町が1名で、高石市の参加はございません。

委員長：前回の審議会を確認いただきたいということで、近隣の市町村で、市民参加は阪南市だけですか。あとは職員の方が参加されるということですか。

館長：はい、市民参加は阪南市だけです。

委員長：これにつきまして、何かご意見等ございますか。

委員：近隣の泉州を確認していただいたということですが、4つの市の説明がないです。泉大津市、和泉市、泉佐野市、泉南市、このようなところはどうなっていますか。また、町は岬町、熊取町、忠岡町などは回答が来なかったのですか。

館長：今回、調査させていただいたところは、阪南公民館運営研究協議会に参加している市町だけです。その市町に問合せをさせていただいた次第です。委員がおっしゃいます、泉大津市、熊取町、岬町も以前はこの協議会に参加しておりましたが、この5、6年前から行政の都合で参加しなくなりました。そのため行き来もなく、聞き難い状況にありました。

委員：わかりました。ありがとうございます。

委員長：関係がなくなり、聞きづらくなっているということですね。

館長：はい。しっかり文書をつけて照会すれば済むことですが、近隣市の知っているところに確認すると、深いことも確認できるということで、岸和田市、阪南市、田尻町、高石市と協議会に加入している団体に確認させていただいた次第です。

委員長：大阪府はもう今、近畿公民館大会に関係していませんね。

館長：関係しておりません。

委員長：近隣でつながりがある市町に問合せいただいた結果、半分以上の市町で集まりに参加されないということですね。昨年度の審議会で、「近畿公民館大会に参加することに意味があるのか。」とのご意見を頂戴しながら、今年は2名の参加予定があるということで、参加された委員の方は、また、ご報告をいただきたいと思います。率直に感想などを語っていただければ結構かと思います。今後の参加も含め、そのような目でみていただければと思います。

館長：近畿公民館大会に限らず、公民館大会は職員も参加しますが、この大会は、公民館の今後のあり方を協議する最前線の場所でもあります。それは事業についても同様で、今後、開かれた公民館が新たな公共との連携を図ることや施設管理のこともあります。

例えば、指定管理者制度や市長部局へ移管などで、様々な長所や短所があるかと思えます。さらに生の意見を聞ける場所として、多いに活用していきたいと考えております。職員のみならず、公民館に集い、学習される団体・グループの方も、知っていただければという思いは常々持っておりますので、今後も参加依頼を継続していきたいと考えています。

委員長：近畿公民館大会について、他に意見がないようですので、全国大会が近畿に廻ってくるのはだいぶ先ですか。社会教育研究大会の全国大会をやめて、全国ブロックの大会を全国大会に位置づけており、公民館大会は全国大会がありますか。

館長：今回の近畿公民館大会（奈良大会）は冠がついています。第41回全国公民館研究集会奈良大会になっております。

委員長：各ブロック別の大会を全国大会と位置づけているという形だと思います。両方ダブルで近畿大会と全国大会になっているので、それをやめたように思います。公民館大会がブロック別になったのか、忘れてしまいました。

館長：2年前にありました神戸市の大会も全国大会となっていました。昨年開催した滋賀大会は全国大会ではありません。

### 3. 貝塚公民館の利用状況について

委員長：では、案件3の貝塚公民館の利用状況について、事務局から説明をお願いします。

館長：貝塚公民館の利用状況について説明いたします。前回に引き続き継続して議題に挙がっておりますが、逐次、事務局で説明させていただいております。その関連で、今回は3枚のグラフを作成しましたので、皆さまに見ていただきたいと思っております。その上で意見をお聞かせ願いたいと思っております。

まず1枚目は平成26年度から30年度まで、過去5年間の利用人数を比較するグラフ、2枚目が平成29年度、30年度の2年間における施設利用者の目的別で、例えば、講座やクラブ活動で来られた人数です。3枚目は貝塚だけでなく、近隣の市を考えるうえで、公開されている資料から、一番新しいデータで作成し、平成29年における近隣市の公民館の利用者数を貝塚公民館のあゆみや統計資料をもとにして調査・作成しましたのでご覧いただき、貝塚市と近隣市の現状を知っていただければと報告したいと思っております。

統計上となりますので、こちらからどう数字を差し引きすることができませんので、そのまま載せさせていただきました。岸和田市のみ平成29年度です。人口は平成30年3月31日の住民基本台帳から算出させていただきましたものです。先程、会議録のところで、利用者数を人口で割った数値を貝塚市では約1.93と話をさせていただきましたが、岸和田市は約2.59になっております。

しかし貝塚市は3館しかなく、岸和田市は中央館を含めて分館1館、地区館17館、全部で19館あります。19館の中で、公民館と青少年会館と名称をつけるところがあります。ただ、どちらの館もやっていることは公民館と変わりがないということで、岸和田市に確認しております。

比率は多くなりますが、中央・浜手・山手を活動させているように、岸和田市でも19館すべてに行っている方もおられるということです。比率的にも高くなるのかと分析させていただきました。

泉佐野市は平成29年中で、平成29年1月1日～12月31日までの利用者数、平成29年12月31日現在の住民基本台帳の人口をもとに作成しました。泉佐野市は中央公民館がありませんので、これを生涯学習センターで置き換え、公民館と名のつく佐野公民館と長南公民館の3館で、統計をもとに算出しました。1.33となりました。

参考になりますが、全国的に一番新しいデータが、平成 26 年度中で、全国平均が 1.64 です。会議録も訂正させていただいた 2 回弱がこの数字になります。補足説明は以上です。

有料、無料で分けるのであれば、岸和田市は今のところは無料で、貝塚市・泉佐野市は各種団体が有料になっております。泉佐野市は指定管理者制度で運営をしております。岸和田市・貝塚市は直営で、市の教育委員会が運営しております。

しかし岸和田市は、この令和元年度第 3 回定例会の議会で受益者負担の見直しで、各種グループが今後、来年 4 月 1 日から有料になると、条例改正をして可決された次第です。そのようなことがありまして、今後、利用者数が、貝塚市は利用者数が平成 27 年 3 月に条例改正され、10 月から施行させましたが、同様に貝塚市のようにになってしまうかもしれないと考えているところです。

委員長：初めて資料でグラフを見て頂いたので、何でもご質問いただければと思います。

館長：岸和田市の比率が多いと思いますが、岸和田市在住の本市職員に、岸和田市の公民館状況を聞いたところそんなに賑わってなくて、貝塚市の公民館の方が出入りも多いように感じると、感想として述べられていました。

委員：これは施設の数が多いことにより、利用者数が増えているだけですね。

館長：はい、そうです。どうしても統計ですので、どのような基準にして、人数を算出しているかなど、どこの市町村でも変わると思います。その中で、きっちり比較できるかと言えば、定かではないです。

委員：私は四中校区ですが、四中校区は公民館に携わる機会がほぼないです。浜手地区公民館は五中ですし、山手地区公民館は三中で、中央公民館は一中、二中です。中央公民館は、一中・二中学生がこの前の公民館まつりへの参加や学校帰りに寄って涼んでいたりします。そのように生活の中で接する機会が、近くにあるということが結構大切だと思います。

岸和田市の数字は、本当に近くの子どもが行かれている人数が多いのですか。回数が多いのですか。貝塚市は一定の方が、何回も行くことが多いです。岸和田市の数字は大きく、四中校区にそのような施設ができれば良いと思います。

館長：岸和田市は 19 館あるということで、各小学校に館があり、地域に根差しているという状況です。子どもが多く、学校との連携があるようです。大人よりも子どもが主体になるという、言い方が悪いですが、近畿公民館大会での意見交換で、学校主体のところは郊外的なところでの活動が多いと、感じます。

教育部長：ここで岸和田市の資料の中で青少年会館とあるので、たぶん貝塚市の場合の青少年会館の機能も含まれているのかと。そういう意味で言えば、貝塚市の青少年センターやハート交流館の人数を含めると、もっと多くなり、青少年会館の機能を持たせた施設も公民館といっていると思います。このように考えると、貝塚市の

青少年会館の機能の数字を加算したら、もっと多くなるでしょう。館の成りたちが違い、町会館のような形になっているのかなと思います。確認はしておりませんが。

委員長：他に、何かご質問はございませんか。

委員：さっきの話の続きになりますが、延べではなく、実際、誰が参加されているか確認できませんか。例えば、校区别で使っている人数の把握はできませんか。難しいですね。

館長：難しいですね。個人情報的な話になりますが、大体職員はどこから来ているかわかりますが、一人ひとりというのは難しい話ですし、どこの市町村もそうだと思いますが、延べ人数ですね。そのような形でしか算出できません。

今、我々がこの部屋（講座室3）を9時～12時まで何人来られましたかと、12人だと利用者の方に書き入れてもらって、統計資料ができております。中央公民館に来られている方が、山手や浜手に行かれている方が多数おられます。その一人ひとりを考えれば、どこの市も、大きく減ると思います。午前中は中央に行く、午後から浜手に行き、夜間に山手に行ったら、3人が参加させていることになるが、この日の公民館の利用は1人ですが、今までの統計が延べで算出している関係で、そろえているので、また、国の社会教育調査でも同様に回答しているので、変更することは難しいです。

委員：利用状況ですが、貝塚の場合は山手地区公民館ができたことによって、平成3年に開館したことによって、急速に伸びました。以前、松岡さんという職員がおられて、開館したら多く来館してくれると、話し合ったことを覚えています。その後、貝塚で四中校区の方で、公民館を設置してほしいなどの要望はありましたか。

館長：四中校区の件ですが、いつのことだったかは、今、資料がないのでわかりませんが、市議会で「四中校区で公民館は設置できないか」と質問された議員がいました。財政その他の理由により、明言していないと思います。

委員：地域からの要望で、議員の名前は出しませんが、議会で何とか頑張ってくれて、何とかできたのが王子のふれあい会館だと聞いております。ただ、あくまで町会が運営で、公民館という発想にはなっておりません。南校区の町会の中心に会館として使用されています。あくまで自治運営です。

委員：その当時の状況と今の状況は、変化し変わっていると思うし、永寿校区は、生徒がものすごく減っており、生徒が減っているだけでなく、人口そのものも減っております。だから、四中校区を支えている2つの小学校区は、以前は生徒数が拮抗していましたが、永寿校区は1年から6年までで、80人もいないという状況になっております。

要望として出てくるとすれば、町会から出てくると思いますが、議会は議員から出てくると思いますが、今は出にくい状況になってきているのではないかと思います。具体的に地域から要望書が出てきているのかと、ちょっと思っただけです。

しかし公民館が増えたことによって、参加者が大きく伸びていったことは事実です。浜手地区も同様です。

委員：東山のなかよしホームで働かせてもらっておりますが、その時に山手地区公民館を利用させてもらいました。夏休みに2回ほど、子どもたちと一緒に映画鑑賞や公民館まつりに参加させてもらったのですが、そういう団体の参加の人数はどのようになっていますか。把握されているんですか。結構、夏休みに公民館を利用させてもらったのですが、この中に入っているか教えてください。

事務局：資料はないのですが、夏休みのザ★こども納涼まつりの事業だと思いましたが、公民館全館でお祭りをしましたが、その分の数字は出ております。

委員：その数字も含まれていますか。

館長：はい、利用者人数には含んでおります。

教育部長：社会教育施設は公民館施設だけでなく、その館で行う事業と部屋をお貸しして使っていただくことがあります。きちりと分けて算出しており、事業として出前講座なども含めて算出しますので、四中校区でも出前講座を開催してほしいということなら、近くで公民館事業をします。箱ものが建てられないけれど、そのような事業で対応は十分していきます。

館長：本日も四中校区の南小学校校区の旭ヶ丘住宅の町会館で、移動公民館で中央より行かせていかせていただいております。来年はまた堤の町会館に行く計画をしており、どんどん要望があれば行きます。箱ものがあるから公民館ではなくて、青空公民館的な、館がなくても、公民館活動をすることは可能です。自治会、長生会、子ども会といろいろありますが、その中で活用できるものがあれば、相談の上対応させていただきます。

委員：この統計を見て、問題と思うのは推移の方です。26年から30年の推移で、どんどん下がり、29年から30年で、どっと下がっています。令和元年度はどのようになっているか、教えてください。そのあたりの分析はされていますか。なぜ、これだけ下がっていくのかという理由ですね。

館長：予想ですが、令和元年度は途中ですので、定かではありません。平成30年度は結構、中央を除き、浜手、山手が指定避難場所になっており、大雨警報が発令されると避難所になります。避難するところで事業ができないので、安心安全ということで、避難される方をバックアップしないといけないので、9月4日の台風21号やその後の9月29日も台風が襲来また接近の可能性があります。利用者の安全を確保するために、30日は臨時に休館したこともあります。天候により避難所になるという経過が多くありました。それだけが理由になるかは定かではありませんが、それも一つの大きな理由で、利用人数が下がっている要因の一つになるのかと思います。

教育部長：他の社会教育施設もそうですが、皆さまのお家や地域が被害にあったりしており、そこを対応することになって、こちらの方に足を運ぶ機会が少なくなっているということで、他の社会教育施設も少なくなっているのは、傾向的にあると思います。9月のその時期にスポットをあてて、そこだけの利用人数をみると、確かにそこは減っていたので、その要因はあると思います。

委員：それも1つの要因ですが、それだけですか。

館長：全国的にも比較調査は大事だと思ひまして、今回、近隣市の調査もさせていただきました。近隣市も過去5年間の統計をやればいいと思いますが、全国的にみましても、学習グループや団体が活動する時に、右肩下がりになる傾向があります。今年に発表されました平成30年度の社会教育調査の速報がありまして、それをみたところ学習グループの学び、公民館、青少年センターなど、団体で利用するところは、数値が減ってきている。しかし図書館、博物館などの、個人の学びを大切にするとところが増えてきているということ、統計書で確認しているところです。

公民館におきましても中央、浜手、山手でも利用者にならないかもしれませんが、小・中・高校生がロビーを使って、学校の帰りに学習をしていたりするのを結構みます。その子たちを利用者に入れれば、まだまだ増えると思います。どうしても個人利用を公民館はしていない関係で、その中に入れることもできないので、本来の利用者なら入れるべきだと思いますが、統計としては社会教育調査でも同様に入れていない状況です。

委員：今回のようにグラフで経過を示していただいたから、我々も意見を言えるので、これはいいなあと思いますが、このグラフをみるとクラブだけでも約5千人が減っております。もっと対応策を考えられると良いと思います。本当に下がっていることは価値があるのかと、極論をいいますと公民館はいらないということになります。私は、公民館があるから社会貢献をしていただいていると思いますが、何かやっていけないといけないと思います。

事務局：委員のことも含めて、ピンクのチラシをご覧ください。来年、第8回貝塚公民館大会がありまして、利用者がどんどん減ってきている中で、職員だけではどうしてもアイデアがなかなか出にくいところがあります。第8回貝塚公民館大会が、盛大に利用者と職員が一緒になって盛り上げていこうと企画しております。今、来年3月にどうしたら公民館に利用者が増えるだろうと話し合いを進めている最中です。裏面を見ていただくと、いろいろな意見が出ており、次世代のことを考えて、子どもがいかに公民館で楽しく過ごせるか。子育て世代にとって魅力のある公民館、このようなことを議題にして職員も含めて、利用者の団体、浜手の委員や山手の委員も含めて、いろいろと話し合いをして、いい案が出れば、令和2年度から、どんどん、どんどん進めていけたら、いいなあと思っておりますので、第8回貝塚公民館大会が令和2年3月14日に開催する予定です。皆さまもご参加いただき、時間がある限り、何かいいヒントでもいただければありがたいです。

委員：今の補足ですが、平成30年度から確かに1.93と数字が出ていますが、クラブ利用者数についても非常に減ってきております。なぜ減ってきているかという点、

利用者の高齢化、講師の高齢化がありまして、なかなか利用者が増えないというのが実情です。これからどのようにしていこうかということで、皆さん利用している方が、本当に公民館に来て良かったという人がほとんどです。それをどのようにして、みんなに伝えていくのか、利用者に発信していただかなければならない状況です。その中で、我々、しゃべり場をやっておりまして、前回会議にもお話をさせていただきましたが、クラブ協議会の三館利用者協議会で、増やしていくにはどうしたらいいかと、地域のふれあい喫茶で、そこにクラブ案内を持って行って、公民館はこんなところと知ってもらって、できるだけ公民館に顔をだしてもらえたらいいなあとと思います。それと今日は参加されていませんが、商工会議所関係の委員にお願いして、商工会議所の会員ならびに家族の方、商店連合会の方々に、公民館でいろんな事業をしていることを知ってもらおうと、商工会議所の方に、今、パンフレットを置いてもらっております。各ふれあい喫茶につきましても、町会の方に、クラブ案内を配布にしております。前回の公運審で資料として案内させていただいたと思いますが、できるだけ公民館を知ってもらうために各町会に持って行きました。各館で調整して行ってもらっています。また、三館利用者連絡会では、いろんなクラブを知ってもらおうと、山手にあつて浜手がない、浜手にあつて山手がない、いろんなクラブを紹介して、今現在、ほとんどのクラブが展示交流も終わりました。今年も展示クラブを知ってもらうように開催しております。他に、夏休みに子どもが来てもらわないといけないということで、公民館タイムズなどで募集してもらいまして、8月23日に子どもスペシャルを開催しました。2時間しかなかったのですが、その間にいろんなボランティアの方が協力してくれ、子どもたちが約400人も来てくれました。大変盛況ですごい人でした。そういうことで、公民館を知ってもらうのは、子どもが一番いいのかなあとと思います。それには、親がついてきます。やっぱり、そのことを含めまして、東山が地元なので、新しい街になっているから、公民館まつりや公民館大会等で公民館を知ってもらうことを推進することを一番願っております。

事務局：グラフの作成にあたって、いろいろと資料を作成させてもらって、今回は資料に添付しておりませんが、中央公民館の稼働率のグラフも作成しました。使用時間が4つの区分に分かれていますが、午前、午後1、午後2、夜間の区分があり、稼働率で、午後2の区分の利用率が低くなっており、午後2の時間帯を活用していただければと思います。午後2の時間帯はすべて3割以下になっております。部屋によっては4%になっております。

委員：午後2の時間帯は何時ですか。

事務局：15時30分から18時30分までです。大変使いにくい時間帯ですが、その部分を活用していただければ、少しは利用数も上がると思います。また、別なことで、委員がおっしゃられたことで、クラブの人数が5千人ぐらい減っておりまして、その辺が大きな要因かと思っております。

委員：先程、おっしゃっていたように、例えば、避難で浜手を利用されることもありますし、また、図書館などの利用は、この利用者に含まれないですか。

私としてはそのようなことも、公民館としての価値があるわけですし、それを含めずに作成しているのは少クエスチョンです。避難についてもそうだと思います。公民館が無くなれば実際、避難場所もなくなり困りますよね。だから、避難された方も含めてもいいのではないかと思います。

教育部長：はっきりはわかりませんが、館を閉めて避難所として使用しますので、避難所の利用の方の報告になります。ダブルカウントになるので、本来の業務の報告ではありません。

委員：図書館の場合はどうなりますか。

教育部長：図書館というのは、図書コーナーのことですか。

館長：図書コーナーについては、利用人数には含まれておりません。あくまでも図書館の統計の方に入ります。

委員：公民館の図書館ですよ。

館長：あれは図書コーナーで、管轄は図書館です。

委員：実際、ロビーに来て子どもが遊んでいたりするのは価値があることだと思います。公民館として、コミュニティを創っておられるわけですから。

館長：個人の学びはすごく今、高まっております。だから、その人たちをどう引き込むのかも公民館の課題です。

委員：公民館で自習することも大事なことでしょう。なぜ人数に含めないのですか。

事務局：ゲームを使った子どもたちや卓球を使った子どもたちは含まれています。

委員：全然違うことを言います。山手地区公民館まつりとスポーツの日が重なっています。私、何回か言いましたが、それで、両イベントに参加したいという方がいると思います。スポーツの日は統計的にどれぐらいの人が来ているか知りませんが、感覚的にはかなりの人数が来ております。どうして、同じ日にしなければならないのですか。山手地区公民館に以前に言いましたが、山手地区公民館まつりを11月に開催したらどうですか。

館長：確かに、スポーツの日と山手地区公民館まつりは、どうしても同じ日になります。最終的には実行委員会の判断になりますが、スポーツの日につきましては、三中が会場になりますが、スポーツの日は午前中に開催され、山手地区公民館まつりは午前10時から午後3時まで開催し、スポーツの日のイベントに参加された方が、山手地区公民館まつりに参加されるなどの相乗効果を考えております。山手地区公民館まつりを11月に開催すると、他の市の行事と重なることになります。例えば、11月3日は文化の日のつどい、10日は3つの中央公民館事業があり、いろいろな

市の行事が11月になると開催されます。中旬はかいつか家族の日の料理コンクールや表彰式を山手地区公民館で開催し、24日はコスモスシアター周辺で農業祭が開催されます。市としての事業が目白押しです。何とか分けて開催できないのかということも要望を受けておりますが、なかなか10・11月の行事は天候もよく日曜日の行事が集中しております。

委員：全体の秋の事業の調整が必要だと思います。この中央公民館まつりは、以前は5月の開催ではなかったと思います。以前は秋に開催していたと思います。15年ぐらい前の話になりますが。

館長：私の記憶する範囲で、中央公民館まつりは5月の第4土日に、開催予定になっております。昭和28年5月に貝塚公民館が設立されたことに鑑みて開催しております。以前には夏にも、開催した経緯があります。6・7年ぐらい前だと思いますが、その時は純然たるクラブ協議会が中心になるところと、貝塚子育てネットワーク、貝塚ファミリー劇場など、子どもたちを中心とする団体と分かれてまつりを開催していた経緯があります。

一方が5月に開催し、他方が8月に開催していました。そうすると、どちらも相乗効果が見込めないということで、一緒にやれば、もっともって交流もできて、広がるということで、5年ほど前から一緒に再開して今の5月に開催するようになっております。

昔の話なんですけど、貝塚公民館が1館しかない時代は5月に、昔の公民館と一中が会場になって公民館まつりを開催していたことを覚えております。秋に開催したという記憶はないです。

委員：だけど、スポーツの日と山手まつりと同日に開催はいけるということですが、私がスポーツの日の行事が終わって、水間電車に乗って、急いでここへ来たら、もうあなたは福引をひく権利はないと言われました。午後2時ごろまでなら、福引を引けるようにするなど、そういうふうを考えるなら後から参加した人も楽しめるようにしなければなりません。始める時間を後ろにずらして午後3時に終わらないで、4時まで開催してもいいと思います。やっぱり、他の事業との調整しているのは、教育部長だから調整をしてください。

教育部長：早めに日を固定しているのは、スポーツの日で第3日曜日です。調整をどの程度対応できるかは検討するの中で、日程の話は教育部以外でもいろいろな話が出ていて、一定整理してきて、ここまで何とか調整できておりますので、もう一度、公民館と話をしまして、中身で改善できるところは改善していきます。

委員：晩の6時か7時は悪いと思いますが、4時までの開催なら、私はいいと思います。だからその辺の調整をお願いします。スポーツの日のイベントが終わって、昼食をとって山手地区公民館に来れば、1時過ぎになります。そしたら福引を引く権利がないと言われます。福引にこだわりますが、行った人がみんな楽しめるようにしてください。また、模擬店も閉まっているところが多くあります。

事務局：別の話をしているいいですか。利用者を増やす方法ですが、この10月から保育の無償化が始まって、中央公民館は子育ての分野を強く推進していますが、かなり受講者の方が減っているというか、お母さんが子どもを預けて働きに行くことが多くなり、過去のやり方では、通用しないようです。公民館は相互保育で、一緒に見守り勉強することをしていましたが、もう公的などところに預けて、自分も働きに行くということになっているので、そのような方々を取り込む対策も考えていかなければなりません。

委員：利用率の時に、人の人数で集計して統計を出していただきましたが、時間帯別の統計はないですか。例えば、和室が1日で使用している時間帯などはわかりますか。

事務局：1日の区分を4つの区分に分けて、使用状況を確認し、稼働率を集計しております。

委員：その稼働率は大変重要です。

事務局：本日の会議には資料を準備しておりません。

委員：ホテルの空き状況の確認と一緒にですね。

館長：言われているのは稼働率のことで、今、山手地区公民館の講座室3で会議を行い、使用しているので稼働しております。1日の区分を午前、午後1、午後2、夜間として4区分があり、ここの部屋を1日で1区分しか使用しなければ、25%の稼働率です。そのように計算して利用率を出しております。

しかし施設の稼働率も大事ですが、外に出て公民館活動をすることがカウントされません。統計上の利用率に入りませんが、外に出ることも大事です。

委員：外に出ることは大事ですが、中は中で見ていかなければならない。その方が公民館の活動がわかりますし、価値があると思います。

委員長：過去の会議で確認したこともあるように思いますが、今後、検討していきたいと思います。さらに2つほどコメントさせてもらってもいいですか。

1つ目は公民館等の利用率を3つのグラフにまとめていただきありがとうございます。その中で3枚目の平成29年中、近隣市の公民館等利用者数のグラフの参考に、全国平均の26年度の数値がでていますが、平均が1.5だと記憶があります。

1.64はどこの数値を拾われたのかを確認したいです。

もし1.5だとすると、貝塚は高いと思います。それと前回の会議録で、館長は2回弱と言われてましたので確認をしておいてください。去年の速報値は、平成30年度間は1.4になっています。だから全国平均を単純に比較すると貝塚は高いです。それから近隣市の比較でいくと、泉佐野市の日根野に最近、公民館がオープンしましたが、泉佐野市の3つの公民館と比較においても、貝塚市のほうが高いです。ただ、全く館の体制が違う岸和田市と比較すると全然違うので、岸和田市はどのようにカウントされているのか、もう少し聞き取っていく必要があるかと思えます。例

例えば、分館分を除いた館だけで、比較をすればどのようなになるのか。その辺を聞いていく必要があると思います。

また、先程から利用者の話はよくでてきておりますが、ずっと弱いところで、図書館は図書の利用カードを作成するので、何人がその図書館の利用者に登録されているのかがすぐにわかります。総冊数を利用者で割れば、一人何冊借りられているか、間違いのない数字がでますが、公民館は残念ながら、利用登録制度がなく、団体だけです。団体登録制度はありますが、個人の利用はわからない。団体に何人おられるかのアバウトな数字はわかります。

もし精度を上げてやるとすれば、かなり負担になると思いますが、利用カードを作成し、何々クラブに15人いれば15枚のカードをお渡し、また、個人利用で来た方にもカードを渡すことをやれば、正確な数字がでると思いますが、大変だと思います。しかし実験的に1日だけやってみるのもいいと思います。1日だけ選んでやってみるなどのことをすると、もう少しわかってくると思います。

その他、もう1つのやり方は、市民アンケート調査にのせて、「去年1年間に公民館に1回でも来られた方は、○をしてください」というと、市民全体の何%が利用されているかがある程度わかります。そのようなことを、精度高くやるべきだと思います。

やっぱり、今は公民館が厳しい状況なので、私も以前、教育委員会にいたので、よくわかるのですが、そのようなところがものすごく弱いです。特にプロモーションが。これだけ頑張っているのに、認められる数字は全然ありません。その辺をもう少し考え直さないといけない時期かもしれません。

利用カードを発行するなり、1日の利用調査をやってみるなり、部屋の稼働率をまずだして見て、稼働率がぜんぜん落ちてないのに、利用者数が減ってれば、1回当たりに参加する人数は減っています。クラブ利用者がやっぱり減少していることが見えてきます。いろんなところから数値を拾って行って、もう一度、状況を見直してみる必要があります。

先程、言いましたが、公民館の利用について、全国的に差が出てきていて、その中で貝塚は今まで通りできるのかという、逆に言えば、泉佐野市は新しく開館して行っております。来年になれば、数字がぐっと上がっている可能性があります。日根野ができて上がっている可能性もあります。そうなった時に、どうこの3館体制を維持していけるのか。ちょっといろいろな数字を拾う必要があります。

もう1つ貝塚市の弱点ではないですが、3館ありますが、守備範囲をきっちり決めていないことです。私の知っている範囲で、一番と思うのは、大阪府内で、すごく組織的にできているのは豊中市です。豊中市は4館あって、すべて地区割りをしております。地区割りのうえに、分館が引っ付いていて、分館が地区ごとに面倒をみています。はっきりとどの館が、どの人口の対象をもっているのかが、はっきりわかるので、例えば、中央は利用率が高いが、北の方にいけば低いなど、全部でてきます。残念ながら今の貝塚にはそれがいいないので、それも含めて一回、利用状況を調査することも、どこかのタイミングで、中央公民館で利用者全員の方に、1週間、紙を配って、「どこから来ておられますか」「1年に何回ぐらい公民館を利用されていますか」「クラブはどこに加入されていますか」と無記名でとって、ちょっと利用の状況が見えるようにして、その調査を来年あたりにするのが、いいかなと思います。

もう1つは1枚目と2枚目のグラフで、利用率の減少の状況はすごく数値がはっきりとでています。去年は一昨年より、がくんと落ちてきているので、その点を含めて、何が原因なのかをもう少しきめ細かい調査が必要です。何らかの形で、本当に、実数どのぐらいの方が公民館を利用されていて、年間何回ぐらい利用されていて、平均年齢は何歳か、などがわかってくると、もう少しわかりやすくなると思います。そのことを考えないといけないと思います。毎年やっておられると思いますが、もう少し踏み込んで、一人ひとりの利用者の情報も必要だと思います。

今はもう世間は、ビックデータの時代になっていて、スマートフォンを持っている、ピッとやった瞬間にどこの誰かが、全部コンビニにわかるようになっているので、コンビニなどはものすごく利用率のデータを持っていると思います。世の中はそうようになっていっていると思います。その辺で、もう少し、外にアピールするために、年間、これだけの人が使っているという、きめ細かいことが必要です。

特に2枚目のグラフで、落ちている経過をしばらく見ていかなければならない。そこから根本的な議論を、公運審ですべきだと思います。例えば先程、話にでました四中校区にできている「ふれあいセンター」を、地区館として位置づけて、その利用者がダブルカウントでもいいから利用者としてとっていく。

どこの館でもそうですが、ロビーを利用されて座っている方のカウントを基本していません。やっている館もあります。入ってきた子ども達の人数を事務局の方が計っていて、今日は何人の中学生が来たなど。

例えば、毎日は無理でも、何日か選んでやってみるとその施設を利用している子ども達の人数がでてきます。何かやり方があると思うので、今日はきちっとデータをだしていただきましたが、その経過をみながらやっていければ、かなり突っ込んだ議論もできると思います。

では、次の案件の「その他」にいかせてもらいます。事務局または委員の皆さんで何かございましたらお願いします。

#### 4. その他

委員：簡単な1つの例としまして、入り口にカウンターを設置するだけでも、いろいろなデータが集まりませんか。人が通った時に自動でカウントする。簡単に安いものでできると思いますが。

館長：ただ費用もかかるし、どんなものですか。防犯上で実施するのはいいですが、予算がでないと思います。ご意見は参考にさせていただきます。

委員：人がどうかこうとかだけではなくて、公民館に来ていない人にアンケートを実施する必要があります。「公民館の活動がどのようなものがあるか知っていますか」「なぜ参加しませんか」、そのようなアンケートを書いてくれるのは難しいと思いますが、そのようなところから新しいニーズが見えてくるのではないかと思います。来ない人が、なぜ来ないのかを考えることも大事だと思います。

市民福祉センターの老人福祉センターのことですが、確実に利用者が減ってきております。市長部局だから、教育委員会には資料を持っていないと思いますし、今日は資料の数字を持ってきておりませんが、高齢者自体は増えていますが、市民福祉センターの老人福祉センターに来る人数は、着実に減っております。なぜかという

ことを考え、公民館の活動も高齢者ばかりではないですが、やはり関係があると思います。人数的にはそんなに多くないと思いますが、ひと・ふれあいセンターも、市民全体に開放して事業を展開しております。やすらぎ老人福祉センターもそうです。だから、そういうところに行っている方が、公民館に来ないのか。なぜ公民館には来ないけど、そちらに行っているのか。人数的には大きい人数ではないですが、そういうところの実態もつかんでおく必要があると思います。

委員長：いろいろな利用形態があると思いますが、なぜ人数が減っていくのかが見えないですね。館を利用されている方に、良いアイデアをだしてもらうことも必要です。公民館まつりの時に、どのようにすれば参加実数をつかめるかなど。

事務局：公民館大会もそうですが、利用者さんの意見を聞いていくことは重要です。

委員長：他に何かございませんか。

館長：皆さまに、文化の日のつどいのご案内とちらし2枚（文化の日のつどい・市民文化祭）をお配りさせていただいております。委員には、市長と教育長の連名で、ご案内を差し上げております。「ご来場の際には本状を受付にお示しください」となっております。式典は11月3日（日）午後1時からコスモシアター中ホールで行います。内容は式典で、善行者と教育功労者の表彰を行い、2番目の記念講演は「勝利はすべてミッションから始まる」と題し、日本生命女子卓球部総監督で元卓球女子日本代表監督の村上恭和さんに来て頂きます。3番目は対談で「オリンピックと私」と題し、村上恭和さんと1964年東京オリンピックバレーボール女子金メダリストの井戸川絹子（旧姓：谷田）さんと貝塚在住でパラリンピックの水泳競技に出られている生長奈緒美さんと藤原市長との4名で対談を行う予定です。

もう1つは市民文化祭で11月2・3日（土・日）にコスモシアターと一部に中央公民館のエリアで行います。いろいろな催しを開催します。音楽サロンでは、文化振興事業団理事長の西川修助さんをはじめ、大ホールロビーで文化サロンを開催します。またハーバリウム作り体験、市民茶会、ミニだんじりなどの作品展示等も開催します。さらに、ちらしの裏面ですが、子どもアート広場は11月3日

（日）10時～14時30分まで、コスモシアターで、委員が加入されています「貝塚子育てネットワークの会」に協力していただいて、工作体験やつげさんと記念撮影をすることも予定しており、また、中央公民館2階の視聴覚室で、児童図画作品展も行います。委員の皆さまには、ぜひご来場いただきたいと思います。

次に、各公民館からイベントなどを紹介させていただきます。

事務局：中央公民館は黄色のちらしをご覧ください。「ビューティフル・ハーモニー～新元号「令和」によせて～」というテーマで、貝塚市クラシック音楽家協会よるクラシックコンサートを11月10日（日）午後1時30分開演、中央公民館視聴覚室にて開催します。お時間の許す方は、ぜひご来場いただきたいと思います。

事務局：浜手地区公民館です。ふれあいまつりが10月27日（日）に開催されます。今年は開館30周年ですので、スタンプラリーを開催し、全部スタンプを集めた方

には、簡単な景品もありますので、ぜひお越してください。また、30周年事業を10月以降で企画しておりますので、皆さま、参加していただければうれしいです。

事務局：山手地区公民館です。先程、話題になりました山手地区公民館まつりが、10月20日（日）に開催されます。今回初めて、ちらしを山手地域の小学校のすべての児童に配布しました。子どもたちが多く参加してくれるように、職員も努力しております。

それから「フアフアクラブ」がございまして、こちらは子どもと親子の時間を大事にしようという事業です。次に「子育て×自分磨き」は子育てしながら、お母さん自身も磨いていこうという講座です。「お一人さまの献立」は、一人暮らしでもちゃんと食べていこうという講座です。「笑って健幸、笑いヨガ」は、皆さん、笑ってください。健康になりましょうという講座です。「アルパ演奏 in かいづか」は、アルパの演奏で、皆さん、こころを癒してくださいという事業になります。「子どもの発達十人十色」は子どもの発達ということです。

山手地区公民館では、皆さんに、宣伝をしてほしいですが、直営として、利益を求めずに、障がい者や子育てなど、少数でも十分やっていこうと企画をしております。皆さん、ぜひとも、山手地区公民館を始め、貝塚公民館は直営なので、利益を求めなくて、少人数の講座でも開催するというので、一人ひとりを大切にしているのが、貝塚市の持ち味だと、私は思っておりますので、どうぞ、皆さん、宣伝の方をよろしくお願いいたします。

委員長：最後に次回の日程の調整を事務局からお願いします。

（日程調整後、下記に決定した）

第3回：令和元年12月13日（金）午後3時～ 教育庁舎3階第1会議室にて

第4回：令和2年3月13日（金）午後1時30分～ 中央公民館にて

委員長：以上で、第2回公民館運営審議会を終了いたします。ありがとうございました。

（一同）：お疲れ様でした。

午後3時35分 終了